

随 想

同窓会会長 平 田 豊 (22回)

2004年6月28日は、後で振り返ると記念すべき日となるのかも知れない。フセイン政権の崩壊後14ヶ月余りの占領統治が終了し、イラク人による新しい主権国家が誕生した日である。アメリカ軍の占領が終わったことで反米テロが大義を失い、治安が回復するかどうかは全く不透明だが、之を契機として世界に真の平和が訪れてほしいものである。最近の米国の世論調査によると、「イラク戦争は戦う価値がなかった」とする回答が過半数となったと報じられているが、これもいずれは歴史が証明することになるのだろうと思う。

さて、話は変わるが、最近「プライベートライアン」という映画の再放映がテレビの名画劇場であった。スピルバーグ監督による戦争映画で6年前アメリカで封切られ、日本でも評判になった。同時に小説としても出版されたので、見たり読んだりした方も多いと思う。

紙数に限りがあるので、詳細を紹介することは出来ないが、概略はこうである。約60年前、第二次大戦のノルマンディー上陸作戦の時の物語である。アイオワ州の片田舎から4人の兄弟が出征し3人が死亡した。残された母親の嘆きと国民世論の動向にも配慮して、陸軍参謀本部は残された末弟のライアン2等兵の帰還を決定した。ミラー大尉ほか7人の分隊が編成されライアン救出の為に出発する。「何でそんな田舎者の一兵卒を救出する為に、我々は命を賭けなければならないのか」という疑問に悩みながら、ミラー大尉の分隊はようやくして本人を発見する。場所はドイツ軍と交戦中のフランスの最前線である。ライアンは帰還命令に対し、「戦場の同僚を残して一人帰るわけにいかない」と命令を拒否し、ミラー大尉と対立するが、そのうちにドイツ軍が進攻してきて大尉の分隊も戦闘に巻き込まれる。そして、ミラーを含め救出隊員も殆どが戦死しライアンは生き残る。「俺達の犠牲に見合うだけのひとかどの男になれよ」と言い残してミラー大尉は死んで行く。

この映画は、戦闘場面の迫力は勿論だが、登場する人

物を通して組織の中の秩序とか、国家と個人の関係、或いは勇気と自己犠牲の精神等々色々なことを考えさせ感動を与えてくれる。「お人よし」、「世話好き」、「自信過剰」、アメリカ人を評する色々な表現があるが、この映画にはそういった古き良きアメリカが表現されている様に思う。

さて翻って、イラク戦争である。今、アメリカから10数万人の軍隊がイラクに攻め入っている。大量破壊兵器の搜索から始まって、イラク人民の圧制からの解放、民主主義の導入等色々な大義名分がある。だが然し、その大義名分が本当に世界の人々の共感を得ているかどうかについては、いささか疑問があるように思う。現在、アメリカの兵士達はどんな思いでイラクの地で戦っているのだろうか。「何故?」、「俺達の死は何に値するのだろうか」、その様な疑問に回答が見出されているのだろうか。不毛とも思えるテロ、拷問、拉致誘拐の日常の中で、イラクの戦場を舞台にして、後年、「プライベートライアン」の様な映画が生まれてくるのだろうか。

更に言えば、日本の自衛隊である。今、我が自衛隊はイラク復興支援の為に、生命の危険を冒して日夜奮闘努力している。日米安保条約に基く措置として当然のことではあるが、その行動の中に隊員の一人一人が納得出来るだけの価値を見出して欲しいものである。又、隊員たちが安んじて活動出来るだけのバックアップを、国民世論として形成する必要があると思う。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 平田 豊

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

甲陽ホームページ

<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

平田会長再選

4月27日に開かれた役員総会にて、平成16・17年度の会長の選出が行われ、22回の平田豊氏が再選されました。又、監事3名が選出されました。その後、会長より各役員への委嘱が行われ、又、各委員会では委員長の互選が行われましたので、右にその結果を掲載いたします。

役 職	氏 名	回 生
名誉会長	高垣雄二郎	15
会 長	平田 豊	22
副 会 長	有田 和男	31
	横内 昭	34
	中村 貞三	35
	西村 貞一	45
	今西 昭	57
	宗田 久雄	高商1
相 談 役	西松 龍一	1
	山野井 萬	4
	建内 保興	12
	中島 久	22

役 職	氏 名	回 生
顧 問	尾山 啓二	35
	田村 眞也	36
	守殿 貞夫	41
	大川 貴史	55
専務理事	望月 信彰	27
	鶴田 和成	38
	田村 坦之	39
	永井 隆	44
	池田 収一	48
	辰野 久夫	51
	佐藤 秀明	53
	箱田 光信	57

役 職	氏 名	回 生
監 事	川端喜佐男	22
	渡邊 功	43
	水島 昇	49

会報編集委員会

委 員 長 今西 昭 57

会員総会運営委員会

委 員 長 中村 貞三 35

会務運営委員会

委 員 長 横内 昭 34

※役員の順は会則第10条による。

※委員会については会則第28条による。

特集

大学進学をめぐるって

母校甲陽学院の教育方針には「本学院は気品高く教養ゆたかな有為の人材を養成することを目的とし、将来大学で学ぶ者のために十分な学力と体力とを錬磨する」という一節が見られる。その意味で甲陽は「進学校」と言えるだろう。一方、今春より国立大学が法人化されたことや大学生の学力低下が論議を呼んだことなど、大学進学をめぐる話題は尽きない。今回「大学進学をめぐる」と題し、母校の進学資料室長である箱田先生、今年大学に進学したばかりの伊藤浩樹氏（85回）、大学院を含む6年の大学生生活を終えようとしている吉森晃氏（80回）にご執筆をいただいた。

今年の大学入試を振り返って

進学資料室長 箱田 光信

◎2004年度入試全般

志願者数・受験者数ともに過去最高を記録した昨年と比べて「センター試験」はいずれも約1万5千人減少し、志願者587,350人、受験者540,446人であった。5教科受験者（800点満点総合集計）の平均点は4年ぶりに約20点上昇し、科目別に見ると、国語Ⅰ・Ⅱ（+13点）、英語（+3点）、数学Ⅰ・A（+9点）と5教科受験者の多くが受験する科目で平均点が上がった点が特徴である。

国公立大学の「個別学力検査（2次試験）」の志願者数は前年比94.3%（32,177人減）の534,233人となり、全日程で志願倍率が前年を下回った。センター試験で5教科7科目を課す大学が大幅に増加したため、4教科以下でのセンター試験受験者が国公立大学に出願しにくかったことが背景として考えられる。全体の受験者数が減少した中で、難関大学ではほぼ前年並の受験者数となった。センター試験の平均点アップの影響で全体的に強気の出願を行ったことが窺え、上位の大学ほど厳しい競争となった。第1段階選抜不合格者数は10,066人（東京大学後期を除く）で前年より413人増加した。強気の出願と、東京大学文科一類をはじめ法学系学部で募集人員が削減されたことが影響したと思われる。京都大学では、前後期合わせての第1段階選抜不合格者数が前年比で346人増加した。

また、後期日程入試の欠席率は47.9%と依然高い。これは、前期日程の合格者の他、私立大学合格による欠席者が多いためである。後期日程は募集人員が少ないため、志願倍率（志願者数÷募集人員）が高倍率となりやすいが、実際には約半数の志願者しか受験しないので、実質倍率（受験者数÷合格者数）はさほど高くはない場合が多い。志望度合いの高い大学であれば、後期日程もチャンスのひとつとして捉え、志願倍率の高さなどに惑わされることなく後期日程まで受験意欲を保つことも大切である。

学部系統ごとに見ると、法科大学院設置による大幅な学部定員減のあった法学系では他の文系学部への出願変更もみられたものの、少数激戦の入試となった。理系では志願者の増えた医・歯・薬学系がセンター試験の得点率のアップの影響もあり、入試のレベルは昨年と同様高い水準を保って安定している。

◎本校の合格状況

本校の2004年度大学入試の合格状況は次のページの

通りである。なお、表中「既卒」とはいわゆる「浪人」および「（大学進学後の）再受験者」を表している。今春卒業生205名のうち国公立大学合格者は106名（国立102・公立4）であった（昨年は104名（国立101・公立3））。また、例年多くの生徒が進学する東大・京大・阪大・神大の合格者の合計は143名（現役96・既卒47）であった。なお、昨年の合格者の合計は137名（現役92・既卒45）であった。

本校においてもセンター試験易化の影響で当初強気の出願を考えていたものの、自己採点の集計結果を見て出願先を変更した者が例年になく多く見られた。第1段階選抜の最低合格点も大きくアップしたため後期を中心に第1段階選抜不合格となった者も少なからずいた。

難易に関係なく、センター試験でまずまずの成績を修めた者は迷うことなく第一志望の大学・学部に出願し2次試験対策に専念できる。そうでなかった者は出願締め切りまでの約3週間、志望変更を検討したり第1段階選抜を心配しなければならない。センター試験の傾斜配点以上に総合得点にまで影響が及び、結果的に大きな差がついてしまうのである。とは言っても、センター試験は基礎学力をみる試験である。しかも、そこで高得点を上げることは必要条件であって、十分条件ではない。学科点（日頃の学校における学習成績）が高い者でセンター試験の得点が低い者はいない。1年生、2年生のときから学校の学習に真剣に取り組む姿勢が要求される。

	東京大学		京都大学		大阪大学		神戸大学	
	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
前期日程	18	2	41	13	13	16	4	5
後期日程	2		8	1	1	5	6	5
推薦・AO入試					1		2	

「4大学」日程別合格者数

◎大学入試改革について

2005年度は現行課程最後の入試となるので、浪人回避のための手堅い出願が増えることが予想される。2006年度新課程入試では、センター試験の英語でリスニングテストの導入や、医学部の理科3科目必須受験などの大きな変更も予定されている。国立大学の独立行政法人化に伴い、京都大学をはじめとして特色ある選抜方法が大学ごとに打ち出されている。

これからの受験生として、ある程度の情報収集は必要であるが、制度の改革に振り回されことなく自分の将来を見据え「何のために大学を目指すのか」「自分が大学で学ぶことの意味」を考え続けることが大切なのではないだろうか。

大学入試合格状況（2004年度）

国立大学

大学・学部		計	現役	既卒
東京大学	文 一	7	6	1
	文 二	4	4	
	文 三			
	理 一	8	8	
	理 二	2	1	1
	理 三	1	1	
	計	22	20	2
京都大学	文	1		1
	法	10	8	2
	経 済	6	5	1
	理	7	6	1
	工	21	19	2
	医	6	3	3
	薬	3	3	
	農	7	4	3
	総合人間	2	1	1
	計	63	49	14
大阪大学	法	2		2
	経 済	9	3	6
	理	2	1	1
	工	10	6	4
	基礎工	3	1	2
	医	6	3	3
	歯	3		3
	薬	1	1	
	計	36	15	21
神戸大学	法	2	1	1
	経 済	1		1
	経 営	5	1	4
	発 達	1	1	
	国際文化	1		1
	工	4	4	
	医	6	3	3
	農	1	1	
	海 事	1	1	
	計	22	12	10

公立大学

大 学	計	現役	既卒
東 北 大	1	1	
東京芸術大	1	1	
東京工業大	3		3
一 橋 大	2	1	1
山 梨 大	1	1	
静 岡 大	1	1	
三 重 大	1		1
名 古 屋 大	1		1
京都教育大	1		1
広 島 大	1		1
鳥 取 大	1		1
山 口 大	1		1
徳 島 大	4		4
香 川 大	1		1
九 州 大	1	1	
熊 本 大	1		1
国立大学計	165	102	63

大 学	計	現役	既卒
札幌医科大	1		1
岐阜薬科大	1		1
名古屋市立大	1		1
京都府立医科大	1		1
大阪市立大	4	2	2
大阪府立大	8	1	7
兵庫県立大	1		1
奈良県立医科大	1	1	
和歌山県立医大	1		1
公立大学計	19	4	15

準大学

準 大 学	計	現役	既卒
防衛医科大学校	7		7
防衛大学校	2		2
準 大 学 計	9		9

私立大学

大 学	計	現役	既卒
早 稲 田 大	23	3	20
慶應義塾大	20	8	12
同志社大	19	4	15
関西学院大	28	6	22
そ の 他	81	2	79
私立大学計	171	23	148

* 合格者数が少数の私立大学については、一括して示している。

大学受験体験記

東京大学文科一類 伊藤浩樹 (85回)

甲陽学院85回生の伊藤浩樹です。今年度、僕は東京大学文科一類に合格することができました。甲陽学院にいたおかげで、勉学に励むだけでなく、学校生活も十分に楽しみ、充実した受験生活を送ることができたと思います。新しい大学生活にもようやく慣れ、友達も増えましたが、今さらながら様々な意味で甲陽高校での3年間の楽しい生活が終わったのだなとしみじみ実感しているしだいです。

以下に僕の受験生活を少し述べさせていただきます。僕自身としては受験をはっきりと意識して勉強を始めたのは高2の冬です。学校で受ける模試も増え、まわりもこの頃から塾に行く人が次第に増えていったようです。3年の4月くらいになるとさすがに受験に対するモチベーションもあがってかなり熱心に勉強しました。夏休みには学校の講習に行ったり、予備校の夏期講習に行ったりしましたが、正直なところ、ただひたすら勉強するだけの毎日に嫌気がさして疲れてしまったこともあり、そんななか、9月に音展の合唱コンクールの練習が始まり、僕のクラスでは“勝手にシンドバッド”を、友人らと話し合いながら苦勞して編曲して歌いました。自分達で編曲したという達成感もあって、この合唱コンクールは厳しい受験生活のなかであって、僕に活力を与

えてくれた忘れられない思い出の一つになりました。

たしかに受験というのは様々な要素が複雑に絡んでくるので、必ずしも勉強したからといって平素の成績がそのまま結果に出るわけではないでしょうが、やはりコンスタントに努力しないとまず合格の可能性は乏しいと思います。どの時期から集中していくかは個人差がありますが、何をどのように取り組んでいったらよいか、勉強の仕方はとても大切です。先輩や、先生のアドバイスを聞きながら、自分にあった方法を選択し、その時々で自分の到達度や弱点を客観的に評価していくことがとても大切です。その意味では模試の結果は単に点数や順位だけではなく、その中身をよくみるのが重要です。

そしてなにより、勉強を継続していくうえで、自分を支えてくれる何かを持っていることが大切だということです。僕は甲陽で何人もの大切な友人を得ることができ、いろいろな刺激も与えられました。それなりに学校行事にも積極的に関わることができたし、そして尊敬できるたくさんの良い先生にも恵まれ、自分を深めることができました。多くの仲間や先生がいてくれた甲陽での高校生活の環境が3年間の学びを支えてくれたのだと思います。甲陽を通して僕を支えてくれた皆さんにお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

大学時代を振り返って

京都大学大学院理学研究科 吉森晃 (80回)

私は今年度で大学院を修了となります。私にとっての大学時代は本当に様々な人との出会いがありました。心から尊敬できる先輩や親友、後輩ができたことが何よりの宝であります。ある時、風邪をひいて寝込んでしまったことがありました。ようやく少し体が楽になったので、下のポストに新聞と郵便物を取りに行くと、ポストのなかに変形した蜜柑と手紙が入っていました。その手紙には「蜜柑を食べて元気になってな」と簡単ですが温かいメッセージが書き添えられていました。蜜柑の形が変形しているのは、ポストの隙間から押し込んだためのものでしたが、その思いやりの気持ちに思わず涙するほど嬉しかったことを今も鮮明に覚えております。あとで感謝の意を込めてお礼を言ったところ、どうやら周りの友人も集めてお見舞いに来てくれていたという事を聞き、さらに心を揺さぶられる思いがしました。彼は大阪の南の方から京都まで毎日通い、奨学金とアルバイト料は自分の勉学のためだけでなく妹の学費にも充てており苦學していましたが、そんな中でも相手を思いやる心を忘れずに、堂々と生きる姿に私は心から尊敬の念を寄せていました。また、大学3年生の時に出会った社会人の先輩は、本当に情熱的な人でした。その情熱は私にもびんびんと伝わってきて、情熱とは人の心から心へと伝播するものだ初めて体感しました。その先輩も私が最も苦勞しているときに、なぜかしらの確に激励に来てくれたのです。

その激励にどれほど鼓舞させられたことかわかりません。どうしようもなく悩んでいるときに、後ろからぽんと後押ししてくれる人がいることの幸せを改めて感じました。そんな先輩も大学時代、本当に素晴らしい先輩や親友に恵まれたそうです。

大学時代を振り返ってみると、私は本当に多くの素晴らしい人格とふれあい、そのなかで自分自身がずいぶん変わる事ができたのではないかと思います。特に「人は一人では生きていけない」と頭ではわかっていながらも、どこかで「自分はできるんだ」という傲慢さが次第に消えていったのではないかなと思います。ダイヤモンドを磨くためにはダイヤモンドを使用するように、人間が磨かれるのも人間の中でしかないのだなと、素直に実感した6年間でした。

今年で京都に移り住んで6年目です。京都という土地で私は自然と季節に敏感になりました。たとえば、春には桜が咲き誇り、蛍が川沿いを舞い、夏は疎水沿いにバラが薫り、秋は金木犀が金色に輝き、冬は大気が澄み、夜空には月や星が静かに煌々と輝いていることを肌身で感じるようになりました。その京都で、学生時代に自身の心の支えとなってくれる心の友を見つけられたということは、私にとって金の思い出として決して忘れることはないと思います。

学校だより

お世話になりました

今春、大安正美先生と御手洗祥子先生のお二人の先生と中学校の事務主任の田中勝弘さんが退職されました。大安先生は数学のご担当で勤続 21 年、御手洗先生は家庭科ご担当で勤続 7 年、田中さんは勤続 1 年でした。今回、お二人の先生からご挨拶を頂戴しました。

定年退職に際して

大 安 正 美



昭和 58 年 4 月着任以来 21 年間お世話になりました。公立高校から本校に来て、ある会合で「ホテルの様な校舎と知的で個性的な生徒達…」と挨拶したのを、ついこの間の様に覚えています。このいい感じのまま、長い幸せな年月を無事に過ごさせて頂けたのも、辰馬育英会、教職員、育友会それに同窓会の皆様のお蔭であると深く感謝いたしております。65 年の人生の中で私なりに感じた事を述べてお別れの挨拶とさせていただきます。

世間に目を向けて見ますと、小学生による殺人、親による子への虐待、大企業の幹部や官僚、政治家の保身のための醜態など暗いニュースばかりが目につきます。敗戦を小学生で迎え、戦前戦後の教育を受け、教育現場に身を置いた者として、反省を込めていろいろと考えることがあります。

敗戦は、食べる物が無い上に、世の中は混乱し、不安と恐怖の中で今日一日が生きられるのかという極限状態の連続でした。更に大変だったのは、今まで信じて来たものがすべて否定され、価値観が 180 度転換してしまったことです。学校へ行けば、それまで使っていた教科書が墨で塗り消され、教師も親も自信を失い何を教えればよいのか分からないまま、ただ子供達に「しっかり勉強なさい」と言い続けていたのではないのでしょうか。義務と責任の説明は強調されず、人間は皆「自由、平等」であるという個人尊重の教育が続けられました。戦後 59 年経った現在、日本は自己中心的、自分勝手、我がまま、自分さえ良ければ人はどうでも良いという風潮に覆われてしまい、「人への思いやり」という言葉が空しく聞こえる悲しい世の中になってしまいました。この世相を反映した学校も大同小異で、教育現場を支配していたのは「勉強が出来れば立派な人間である」という一種の信仰であったと思います。いくら多方面に有能な人間であっても、その土台である人の心が、他人を顧みない自己中心的な人間であっては、たまったものではありません。教育は、知育、徳育、体育の三位一体で成り立ちます。学校は塾や予備校ではなくて、人間を教育する所であります。大企業でも潰れてしまう現在、「良い大学を出て、良い会社へ入れば安心」という時代はもう終わったと言われています。世の価値観がどんなに変わろうとも、甲陽学院が百年後にも強く発展を続けてほしいと願う私は、本校創立者の言葉「明朗、はつらつ、無邪気」を思い出さずにはられません。どうもありがとうございました。

同窓会の皆様へ

御 手 洗 祥 子



同窓会の皆様には、益々、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。私こと、一身上の都合にて甲陽学院高等学校を 3 月末に退職いたしました。在職中は公私にわたり一方ならぬご厚情をいただき、厚くお礼を申し上げます。いまだ、楽しかった日々を思い出しながらその余韻に浸っているところでございます。7 年前埼玉県の高校を経てこちらに参りました時は、大変な進学校であると聞き、果たして「家庭科」が生徒に受け入れられるのか心配でした。と同時に、社会のリーダーとなるべき甲陽生に、息子 3 人を育てた経験と家庭科の教師として私なりのメッセージが届けられたらどんなに素晴らしい事だろうと意気込んでおりました。来てみると学校側も生徒もごく自然に、当然のように教科として受け入れ、しかも設備も共学校と同じレベルで大変驚きました。伝統校のふところの深さといえますか、余裕を感じさせられました。生徒も 1 年生ということもありますが、まことに素直で明るく、柔軟性に富み私の不安はすっかりなくなりました。それでも進学校の中で「家庭科」が貴重な時間を占める事を認識し、甲陽生の役に立つものでなければと思いました。以来、試行錯誤しながら、というよりも生徒の明るさに支えられて、わたくし自身がすっかり夢中になって楽しんでしまった感じです。調理実習の時、生徒のなんと真剣な事、また普段見せない素顔が見えて楽しいひとときでした。生徒の皆さんには私のメッセージは、恐らくあまり伝わっていないかもしれません。卒業して独り暮らしをした時に「家庭科」の授業のひとつまでも思い出してくれば幸いです。そして出来れば社会のリーダーとなった時、生活者の視点に立って行動して欲しいと願っています。毎年の卒業式では、1 年生の時に比べてすっかり大人びて頼もしく、ここから日本や世界を変える若者が巣立っていくのかと思うといつも感動してしまいます。私も九州を最初に、関西、関東、関西と夫の転勤と共に 30 年以上多くの学校と生徒との出会いがありました。私の教師生活の最後に、素晴らしい学校と生徒に出会えた事を本当に嬉しく誇りに思っております。最後に同窓会の皆様の益々のご発展とご健康をお祈りして退職の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

学校だより

幻と化した「甲陽中学校歌」

山田耕筈直筆の「甲陽中学校運動歌」(原題「甲陽中学校歌」)の手稿譜が岡山市で発見されたことを、『甲陽だより』第69号(2004. 3. 31)で紹介したが、これ以後に判明した新事実を報告したい。この時点では、山田耕筈が「甲陽中学校歌」として作曲したにも拘らず、なぜ作詞者の山田在夫教諭が「甲陽中学校運動歌」と改題したのか判らなかった。

2004年5月16日、岡山市立政田小学校で、「第3回政田スタインベルクピアノ・コンサート」が催された。プログラム第1部は「山崎勇雄先生をしのぶ“うたごえ”」だった。楽譜は山崎氏の御遺族が保管されていた遺品の中から発見され、このコンサート会場で初めて一般公開となった。コピーではなく実物の譜面を悉に見ると、楽譜は山田耕筈直筆であるが、五線譜の間に書かれた「運動歌」1・2番の歌詞は耕筈の直筆とは思えなかった。山田在夫氏の筆跡と推定した。山陽新聞記者の太田隆之氏より、もう一つ自筆の「校歌」の楽譜が日本近代音楽館(東京都港区)にあるという情報を得たので、それと比較しなければならなかった。

過日、日本近代音楽館を訪ねて、「校歌」に関連する山田耕筈と信時潔の楽譜調査を行なった。『山田耕筈作品資料目録』(遠山音楽財団付属図書館、1984)には、「甲陽中学校校歌」の手稿譜と歌詞原稿の2点が、目録に掲載されている。前者はマイクロフィルム(番号Ms. 653)、後者は実物(番号Tx. 720)を見せていただいた。驚いたことに、「甲陽中学校校歌」の旋律は「運動歌」のものと同一だが、歌詞は「嗚呼青春の血は燃えて…」の「校歌」だった!但しこの手稿譜は山田耕筈の自筆ではなかった。彼の周辺にいた人物(弟子?)が筆写して、耕筈の手控えとしたものであろう。さらに歌詞をガリ版刷りしたB4の藁半紙は、作曲依頼のために甲陽中学校(誰が送ったかは不明)から耕筈のもとに送られてきたものと思われる。この藁半紙の右下の余白に、耕筈は自筆ペン書きで、曲首6小節分の旋律スケッチを添書きしている。私が太田氏や日本楽劇協会の山田浩子氏(耕筈の養女)から伝え聞いた、もう一つ耕筈自筆の楽譜とは、後者の添書きを指していたのである。この歌詞のタイトルは「甲陽中学校歌 山田在夫作詞」となっており、「校歌」の部分は歌詞同様ガリ版刷り、「甲陽中学」「山田在夫作詞」の部分は手書きであるが、両者は同一人物の筆跡とは思えない。山田耕筈の直筆ではない。どちらか一方が山田教諭の筆跡かもしれないが断定しがたかった。

日本近代音楽館には信時潔が作曲した楽譜も保管されている。マイクロフィルム(番号2312・2353)で、「甲陽中学校校歌」(現、「甲陽学院高等学校々歌」)の自筆初稿を見せていただいた。マイクロフィルムには、2枚の手稿が前後逆になりバラバラになって収められている。番号2353の方に、「甲陽中学校校歌 信時潔作曲」と自筆で曲名が書かれている。

『甲陽』第12巻第1号(甲陽中学校交友会、1929. 9. 25pp. 3-4)には、信時潔自筆手稿の「甲陽中学校校歌」が掲

載されている。この雑誌の編集後記に当たる「甲陽雑記」に、交友会顧問の栗山正則教諭が「四頁の校歌曲譜は、山田在夫作歌の六字を除いては信時潔氏の直筆そのまま、それを小さくして出したものであります。記念の意味で掲載しました。校歌は本年(筆者註、1929年)五月十三日から歌はれてゐます。」と記している。楽譜に添書きされた「山田在夫 作歌」の筆跡は、岡山市で発見された楽譜の「山田在夫 作歌」の筆跡と同じである。また、1929年5月11日の『校務日誌』には、「新定ノ本校歌本日印刷ナル」とあり、13日から16日までの4日間、昼食後や放課後に校歌の練習をしている。

さらに興味深いことには、『甲陽』第12巻第3号(1930. 11. 25)の目次の裏に「甲陽中学校運動歌」の清書した楽譜が印刷されている。ところがこれには「山田在夫作歌」とのみあり、「山田耕筈 作曲」の文字はない。

甲陽中学校は1929年11月5日、新校舎の落成式を行なっている。これに先立つ9月2日には、新校舎の講堂開きを兼ねた第2学期始業式を行なっている。

以上の事実から次のようなことが推定される。新校舎建設が具体化した段階で校歌の制定が計画され、山田在夫教諭が作詞した。山田耕筈と信時潔の2人同時に依頼して、校歌としてふさわしい方を採用しようとしたとは思えないが、具体的な過程については不明である。最初に山田耕筈に依頼したが、出来上がったのを見た山田教諭は、旋律やリズムが自分のイメージに合わない判断して没にした可能性もある。改めて信時潔に依頼したのであろうか。山田耕筈は1930年12月に「耕作」から「耕筈」に改名した。『甲陽だより』の前号では逆に誤記した。訂正する。岡山市で発見された楽譜の署名は「耕作」である。山田耕筈の「甲陽中学校校歌」の楽譜も、1929年春頃までに届いていたかもしれない。あるいは大幅に山田耕筈の楽譜が届くのが遅れたため、改めて信時潔に依頼したのであろうか。いずれにしても、まだ山田耕筈は改名していないので、署名が「耕作」となっているのは当然である。

山田教諭は手元に残った山田耕筈の楽譜を「校歌」から「運動歌」に転用した。岡山の楽譜には、「校歌」の歌詞1番が耕作によって書かれていた。鉛筆書きだったため山田教諭は消しゴムで消し、新たに自分が作った歌詞1・2番を鉛筆で書き込んだのである。政田民俗資料館の安倉清博氏に電話でその旨を話して、消された痕跡を確認していただいた。山田教諭は楽譜の上部に書かれていた曲名「甲陽中学校校歌」を、「甲陽中学校運動歌」に書き変えたが、表紙に書かれていた曲名は書き変えず元のままにしていた。「運動歌」がいつの時点から歌われ始めたのか、卒業生の皆さんにお教えいただきたい。

先入観に囚われずに、岡山で発見された楽譜(現、「甲陽学院応援歌」の原曲)で、「甲陽中学校校歌」(制定時の歌詞)を歌ってみよう。これこそが幻と化した山田耕筈作曲の、もう一つの校歌なのである。

(校史資料室長 山内 英正)

清酒「白鹿」酒蔵見聞記

会報・第69号で案内がありました清酒「白鹿」酒蔵見学会が、辰馬本家酒造株式会社のご好意で、この4月21日の午後、陽春の好天に恵まれて行われました。

当日は、同窓生とその家族40余名が参加、和気藹々と2班に分かれ、案内の方が説明される340余年の伝統に根づいた複雑な酒造りの工程を、丁寧で判りやすく軽妙に話されるその口調に聞き入りました。

そして昔から培われた伝統の技を守りながらも、しかも新時代の先端に行く高度にハイテク化された酒造りの技術・設備に目を瞠り、酒樽を菰で包む熟練した実演に拍手を送りました。最後には白鹿館での和やかな歓談と、数々の銘酒「白鹿」の磨かれた味を賞味させて頂き、大吟醸酒・吟醸酒・純米酒などの「利き酒会」も行われ、新しく「利き酒名人」も誕生しました。圧巻は、辰馬章夫社長の練られた美声による「酒造り唄」を聞かせて頂いた事です。本当に心地よい酔いのなか、楽しく有意義な半日を過ごす事が出来ましたこと、同社の皆様方に感謝と御礼を申し上げます。



今回の見学会で、見聞きして良い耳学問をさせて頂いた事、なるほどと感銘を受けた事などを、少しばかり記させて頂きます。

◆商号「白鹿」の由来

白鹿の名前は長生を祈る中国の神仙思想に由来している。唐の時代、玄宗皇帝の宮殿に一頭の白鹿が迷い込み、仙人の王旻が、これを千年生きた白鹿と看破した。調べると角ぎわの雪毛の中から「宜春苑中之白鹿」刻んだ銅牌が現れた。“宜春苑”とは唐の時代を千年も遡る漢の武帝の時代のもの。皇帝はこれを瑞祥として飲み、盛大な慶宴を開いた。「白鹿」の名は、この故事によるもので、江戸時代の看板にも「宜春苑長生自得千年壽白鹿」という銘が打たれている。「白鹿」の名には、創業340余年の昔から、自然の大いなる生命の気と、日々の楽しみと、長寿の願いが込められている、とのこと。今までの、なぜ「白鹿」との疑問が解消しました。



◆「六光蔵」について

見学者が最初に案内されたのは、近代化された「六光蔵」です。その名の由来は、同社の最高級酒「六光年」に因んで命名されたとのこと。この蔵は、同社の常に時代を先取りする精神と技術、そして酒造りへの真摯な情熱に支えられ、吟味された山田錦の精米から、酒造りの複雑な工程技術・設備を画期的に自動化し、コンピュータによる設備の稼働状況から、お酒の精米・発酵・熟成過程まで集中的に管理されていました。これは蓄積された永年の丹波杜氏の伝統とワザ、古今無双の宮水と山田錦との出会い、それに同社の持つ最新のバイオテクノロジーの技術が一体化され見事に融合されていました。これは、「酒は造るのではなく育てるもの」という同社の持つ卓越した哲学と、酒造りへの大きな夢と気概に深く感銘を受けました。

◆「日本酒」の効用について

日本酒は、飲む時の温度（燗・常温・冷）によって、微妙な味わいの変化が楽しめ、その場の陶然とした雰囲気盛り上げる。適量の飲酒は、日常生活でのストレス解消・食欲の増進・人間関係の円滑化・動脈硬化の予防に良い。更には血液の循環が良くなり、冷え性の改善や美肌効果も期待できるとのこと。女性も増えてきていると聞いています。



次回の見学会を期待しまして、私の拙い見聞記を終わらせて頂きます。

(有田 記)

第6回

リレー随想

土井 省吾 (23回)

リレー随想の執筆依頼があった。最近執筆が苦痛であるのと、拙文でもあるので辞退する積もりだったが、青春時代を回想する機会を与えて頂いたと、敢えてお引受けした次第である。

甲陽中学受験と新入当時の回想

昭和14年武庫小学校卒業の直前、教育熱心な母が、県立は一中と尼中、私立は甲陽の三校を見学に行き、結果として甲陽一本に絞っての受験を奨めました。理由は校風や環境が素晴らしいとひどく気に入ったからです。

幸運にも合格し、深江先生担当の梅組に編成されました。立派な校舎の南と北に生徒用のスロープがあり、中央階段は先生のための昇降用で生徒の使用は厳禁。地下室のスチール製ロッカーが各人に与えられるなど、素晴らしい設備に驚いたものです。

夫々が希望する運動各部に入部し、私は弁論部を選びました。当部は先輩がマンツーマンで新人の専任指導に当る仕組みで、私は22回生の北村崇様に担当して頂きました。放課後のガラとした教室で、蜜声をはり上げ声の抑揚、ゼスチャーを交え4～5枚の原稿を7分丁度で仕上げる訓練が続きました。二年生の時、高野山大学で行われた全関西中等学校弁論大会に初出場し（二等受賞）、大感激でした。演題は「維新の志士吉田松蔭を偲びて」でした。戦争激化につれ、反戦思想を案じ、警察署で原稿の事前点検が始まるとかで、自然休部となりました。

午前の授業第4時限が終ると、毎日長い藤棚廊下を食堂へ向っての全力疾走が始まります。先着20食のランチ券獲得の為ですが、カレー、麺類、パン等は豊富にありました。一年生の夏に甲子園浜で水泳訓練があり、能力別の帽子に組分けされ、水泳達者な上級生が指導してくれました。完全な金槌だった赤帽の私が、後日陸士での沼津遠泳大会に完泳出来たのもこのお蔭です。

戦時体制下の学校生活

戦争激化に伴い、配属将校の教練が強化されました。食糧事情も極端に悪くなり、食堂から米飯が姿を消し、草ダンゴ等代用食一色になりました。医薬品が入手困難で、伝染病の肺結核が不治の病として大流行しました。不幸にも母と当時甲陽一年生に入学したばかりの弟が、相次いで感染死亡しました。健康優良児だった弟がやられ、虚弱体質だった私が無事だったのが不思議な位です。戦後はペニシリン注射一本で完治し、肺結核の恐怖が完全になくなったのは皮肉な事でした。

戦況我に利あらず、予科練、陸士、海兵の志願者が増え陸士を受験したのも私の打算だったかも知れません。昭和19年甲陽卒業の直前に入校を命ぜられ将校生徒になりました。昭和20年の紀元節に代々木練兵場で、昭和天皇の観兵式があり、陸士が最前列で行進することになりました。2月の厳寒期早朝水ごりをして身を清め、埼玉から東京まで行軍して参加しました。敗色濃厚になるにつれ、各地で焼夷弾の猛爆が続き、陸士校庭から東京上空が真赤に染まっているのが遠望出来ました。戦時下で陸士（予科）を一年で短期卒業し、埼玉県入間川の陸軍航



昨年の芳梅会 後列右から3人目が筆者

空士官学校に入校しましたが、日本上空は米軍機の独壇場で満州に渡らねば、航空訓練も不能な状態でした。広島、長崎に原爆投下、遂に終戦宣言が下り私の陸士生活も終わりました。

復員後の学校生活

陸士、海兵の多数の復員者を対象に、旧制高校が編入試験をしてくれる事となりました。マッカーサー司令部が職業軍人の卵が在校生徒に占める比率を制限したので、これに落ちると来年の入試は比率が更に厳しくなることもあって、是非パスすることが必須でした。三高、大高、浪高の中から受験者が比較的少なそうな浪高を選び、幸運にも合格する事が出来ました。学制改革で旧帝大も女性に門戸を開放し、旧制高校以外の専門学校にも受験資格が与えられる等、益々狭き門となりましたが、京大法学部に入學する事が出来ました。自宅通学に若干無理があったので、寄宿舎入寮試験（完全自治寮で上級生の面接試験のみ）を受けたところ、運良くパス、一人一室八畳の間と食生活も保障されており、ここでは充実した大学生活を過ごすことが出来たと思います。

クラス会(芳梅会)について

戦後、クラスメートの消息が判明するにつれ、クラス会設立の気運が起きました。世話役が中心となり諸準備の結果第一回の会合を昭和38年8月に甲子園口の桃源閣で開催の運びとなり、26名が出席しました。以降毎年欠かさず事なく総会を開き、昨年で39回目を数えるに至っています。

第9回会合では、早く甲陽を退かれた担任深江先生をお招きした処、30年ぶりの再会を小学生の遠足の様に数日前から落着かず参加したと喜ばれ感無量でした。

今迄に参加されたのは、町田、北村、富岡、谷本の諸先生方です。

阪神大震災直後、西宮で「頑張ろう芳梅会」を全国の芳梅会員から頂いたお見舞金を基に、被災会員が相集い友情に涙しました。今迄の世話役が他県へ転出となり全員の推挙を受け、以来私が世話役となりました。私は社会人時代は比較的多忙で、クラス会皆勤とはいかず借りを返す為でもありました。ここ10年来家族同伴を含め20名以上の一泊旅行を実施していますが、候補地選定が一苦労です。今年は特に卒業60周年を迎える節目ということで特別プランで10月実施を鋭意準備中です。

会 務 報 告

平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日までの会務報告を、平成 16 年 4 月 27 日に開催しました役員総会の議事内容と併せてご報告を申し上げます。

1 はじめに

15 年度と同窓会活動は、前年度に引き続き本年度の活動方針に従い、各委員会の主導により活発且つ充実した展開を行いました。その活動状況と内容につきましては、各委員会の活動状況報告の中で、各委員長からご説明を申し上げます。

この委員会活動で、特に各委員長が意を注ぎ、その成果が上がりましたのは、同窓会活動への若手層の参加であります。従来はともすれば仕事の関係もあり、各委員会とも年配者層が中心になりがちでありました。これに対して、先輩諸氏の好リードもありまして、積極的に若手を起用し、先輩・後輩の垣根もなくなり、活発な論議が戦わされ、若手層の新時代に即応した斬新な意見が採用され、大きく同窓会活動の推進力となっています。これにより同窓会の活性化が、年ごとに良い方向に進んでいるものと確信しております。

2 各委員会の活動状況報告

1. 会務編集委員会

会務編集委員会は、昨年 7 月に「甲陽だより」第 68 号を、今年 3 月に「甲陽だより」第 69 号を、それぞれ発行しました。第 68 号は 11,000 部、第 69 号は 12,000 部印刷し、同窓会員および母校の教職員・在校生に郵送・配布いたしました。第 69 号から印刷部数が増えているのは、新同窓会名簿によって住所不明者が減ったためです。また発送コスト削減のために、第 69 号では郵送からメール便に切り換えました。不都合がないようであれば、メール便を続けていきたいと考えています。

今後とも、内容面での一層の充実に努めてまいりたいと考えております。新しい企画やご提言をお待ちしております。

2. 会員総会運営委員会

会員総会の詳細につきましては、前号でご報告済みですので、省略をさせていただきます。

3. 会務運営委員会

本年度の会務運営委員会は前年度と同じ顔触れの委員で、前後 5 回にわたり開催致しました。述べ 41 名の委員が出席、その間、平田会長は毎回ご出席くださいました。

第一回開催にあたり、会長から本年度の活動方針として以下のご指示が出されました。

- 1) 同窓会として母校にどんな貢献ができるかを探る。
- 2) 来年以降の当委員会での検討テーマとして何があるか。

- 3) 新卒生の「終身会費制度」が発足したが、経過、成果を十分に検証する。

まず、「母校への貢献」については、様々なアイデアが委員各位から出されたが、その中で最も内容的に意義があり、かつ現実的と思われる案は、いわゆる「甲陽アーカイブ」の作成という案でした。これは具体的に申し上げると、母校の卒業生、現役生徒、新旧教職員など母校に関係する人々による学術、芸術、スポーツ等の広い分野での功績、記録、著述、作品を散逸する前に完全に収集してデータベース化しておくという試みであります。

一部の OB の中には、いわば「私家版」として同様の活動をすでに始めておられる方もおられるようですので、このような方のご協力も得ながら、早急に「オフィシャル」なものとして、長く母校に保存すべきでは無いかというものであります。本件はさらに具体的実現の為に外部団体、コンサルタントの指導も含めて、委員会にて引き続き検討していかなければならないと思います。

新卒生の終身会費制度の発足（3 月末の集計によりますと、205 名の新卒生のうち、約 130 名が既に終身会費制度を選択しております。）に伴い、同窓会財務面の改善策のひとつは実現しましたが、これは到着点ではありませんので、間もなく出来上がる予定の三月末貸借対照表の内容を十分に吟味、検討した上で、さらに長期的な財務安定策を確立するためには、年会費の値上げも視野に入れた上で継続的な議論が必要であると思われます。その他の来年度以降のテーマとして同窓会室の問題が検討の対象になると思います。現在、同窓会の事務局は学校のご厚意により高校の校舎の一部を無料で借用しておりますが、場所としては同窓生が日常的に交流するには不便なので、何か発展的な対応策を考えてみたいと思います。場所、費用共に魅力的で、かつ長期的に利用可能な物件にお心当たりがありましたら、是非とも委員会までお申し出くださるようお願い申し上げます。

4. 会員名簿編纂委員会

平成 15 年度版・会員名簿は、昨年 12 月 18 日に完成し、同日に購読予約の皆様方・並びに関係先に発送を行いました。会員名簿の編纂は、14 年中頃から企画・準備を始め、1 年半に及ぶ煩雑な作業でありました。この調査・編纂作業と、広告企画・募集に携わって頂きました、編纂・広告部会の委員の皆様方、ご苦労とご努力に深く感謝と御礼を申し上げます。

次に、会員名簿の調査・編纂作業、広告募集の作業状況等につきましては、既にご報告済みでありますので、会員名簿の編纂・発行につきましても、最終数字のご報告をさせていただきます。

1) 基礎数字（15 年 12 月 26 日現在）

- * 卒業生総数・・・16,220 名
- * 物 故 者・・・3,107 名
- * 現 存 者・・・13,113 名（100.0%）

- *住所判明者・・・10,863名（82.8％）
- *消息不明者・・・2,250名（17.2％）
（消息不明の物故者も含まれています）

：参考数字

- ；H15年7月の会報送付者数・・・約9,400名
- ；H16年3月の会報送付者数・・・10,863名
- （註）名簿編纂の調査により、約1,463名の住所が判明しました。前回の会員名簿の発刊から、今回までの5年間で約1,500名が住所不明となっています。これから見れば97.5％の判明率といえます。

2) 会員名簿関連の数字

- *名簿予約購入者数・・・2,977名
（前回の発刊時は約1,500名）
- *広告掲載件数・・・169件（前回は182件）
- *広告掲載金額合計・・・6,855,000円
（前回は、約7,000,000円）

3) 同窓会への収入

- *委託先からの還元金・・・1,000,000円
- *広告からの還元金・・・1,435,249円（約21％）
合計・・・2,435,249円

4) その他について

- *16年3月末までの時点で、重大な誤掲載が5件ありました。この訂正とお詫びは前号で行いましたが、現在は引き続き誤掲載と変更等の調査を行っています。誤掲載の訂正と変更・正誤等の表を作成中であります。

3 平成15年度の決算報告について

当年度の決算は、収入面で「新卒者からの終身会費制」の発足と、「会員名簿」の発刊による収入により、予算額11,960,000円を上回り、実質面で13,350,474円の収入を得る事が出来ました。一方、支出面では事務の合理化・経費面の支出引き締め等により、予算額9,586,000円に対して、実支出は9,123,968円と、予算額を下回る数字となりました。

総収入面では、昨年度からの繰越金3,728,981円が加算され17,079,455円となります。総支出面では、特別支出1,363,500円が加算され、10,487,468円となりました。この総収支の差額6,591,987円が、16年度への繰越金となります。

当年度の収入を見ますと、新卒者からの終身会費と会員名簿関係の収入があり、特に新卒者からの終身会費の、同窓会財政に及ぼす効果が大きく、ご苦勞をされました会務運営委員会の皆様に感謝と御礼を申し上げます。

4 平成16年度・予算について

当年度の予算編成につきましては、本年の活動方針に添って予算を計上しました。しかし、同窓会の厳しい財政状況を考え、更なる会務の合理化と現実に即した経費節減を求める予算としました。

収入面では、昨年度の実績を考慮するも、会費収入の上積みに努力を傾注したいと考えています。

支出面では、昨年度の実績を尊重するも、支出削減への知恵を働かせ、通信費や会報の送付料などに、新しい工夫を試みたいと願っています。

5 役員総会について

15年度・役員総会を、会則に従い16年4月27日に開催しました。下記の議題につき、それぞれ報告とその審議を行い、原案通り可決・承認されました。

- 1) 平成15年度・会務報告について
- 2) 平成15年度・決算報告について
- 3) 平成15年度・監査報告の承認を求める件について
- 4) 平成15年度・決算の承認を求める件について
- 5) 新会長の選出について
- 6) 新監事の選出について
- 7) 平成16年度・活動方針の承認を求める件について
- 8) 平成16年度・予算の承認を求める件について
- 9) その他の事項

上記の議題のうち、新会長の選出については、平田豊（22回）現会長が再任されました。新監事の選出については、川端喜佐男（22回）現監事が再任され、新しく渡邊功（43回）・水島昇（49回）の両氏が選出されました。今回、後進に道を譲るとのことで、堀建二（17回）・長村卓（21回）の両監事が勇退されました。両氏の長年にわたるご苦勞とご功績に感謝と御礼を申し上げます。

（副会長 有田和男 31回）

● 終身会費・各回別納付金額設定表 ●

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	29,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	28,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	27,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	26,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	25,000
22回	10,000	54回	20,000	高商・1	10,000
23回	10,000	55回	20,500	高商・2	10,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・3	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・4	10,000
26回	10,000	58回	22,000	機械・1	10,000
27回	10,000	59回	22,500	機械・2	10,000
28回	10,000	60回	23,000	造船・1	10,000
29回	10,000	61回	23,500	造船・2	10,000
30回	10,000	62回	24,000	工業・1	10,000
31回	10,000	63回	24,500		
32回	10,000	64回	25,000		

※79～85回は前納年会費以外に上記の金額となります。（単位：円）

●平成15年度決算報告書●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額	科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額
会 費	9,873,500	9,200,000	673,500	人 件 費	2,099,640	2,116,000	△16,360
※年 会 費	1,982,000	1,200,000	782,000	※月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
※終 身 会 費	2,591,500	2,500,000	91,500	※夏 冬 手 当	300,000	300,000	0
※新卒入会金	615,000	600,000	15,000	※通 勤 費	263,640	280,000	△16,360
※新卒年会費	1,435,000	1,400,000	35,000				
※新卒終身会費	3,250,000	3,500,000	△250,000	交 通 費	45,370	200,000	△154,630
名簿委託収入	1,000,000	1,000,000	0	需 要 費	648,851	730,000	△81,149
名簿販売収入	0	0	0	※通 信 費	414,767	600,000	△185,233
名簿広告収入	1,435,249	1,000,000	435,249	※事務消耗品費	50,859	80,000	△29,141
				※備 品 費	183,225	50,000	133,225
会報広告料	40,000	40,000	0				
総会会費収入	860,000	700,000	160,000	会 議 費	2,692,291	2,550,000	142,291
利 子 収 入	1,725	20,000	△18,275	※会員総会費	1,619,621	1,000,000	619,621
				※役員総会費	258,218	300,000	△41,782
雑 収 入	0	0	0	※理 事 会 費	150,906	350,000	△199,094
寄 付 金	140,000	0	140,000	※委 員 会 費	495,696	600,000	△104,304
				※懇 談 会 費	167,850	300,000	△132,150
収入合計	13,350,474	11,960,000	1,390,474				
				事 業 費	3,400,011	3,640,000	△239,989
基本金解約	—	—	0	※甲陽だより	947,625	1,200,000	△252,375
				※郵 送 料	1,551,562	1,400,000	151,562
繰 越 金	3,728,981	3,728,981	0	※振替用紙代	126,735	120,000	6,735
				※封 筒 代	111,090	120,000	△8,910
合 計	17,079,455	15,688,981	1,390,474	※記念品代	542,999	600,000	△57,001
◎平成16年3月末日現在 現預金残高明細				※母校後援費	120,000	200,000	△80,000
*三井住友銀行(普通預金) 2,950,320円				雑 費	237,805	350,000	△112,195
*郵便 局(普通預金) 313,670円				※校 内 志	40,000	50,000	△10,000
* (振替通知票) 2,037,350円				※慶市その他	23,748	100,000	△76,252
*三菱信託銀行(普通預金) 1,273,624円				※振 替 料	82,880	100,000	△17,120
*手元現金 17,023円				※その他雑経費	91,177	100,000	△8,823
合 計 6,591,987円							
				支出合計	9,123,968	9,586,000	△462,032
				特別創立金積立	90,000	0	90,000
				新卒者名簿購入	1,273,500	1,400,000	△126,500
				予 備 費	0	4,702,981	△4,702,981
				支出総計	10,487,468	15,688,981	△5,201,513
				収入総計	17,079,455	—	—
				支出総計	10,487,468	—	—
				翌月繰越金	6,591,987	—	—

(単位：円)

●平成16年度・予算書●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	16年度	前 年 度	差 引 額	科 目	16年度	前 年 度	差 引 額
会 費	9,200,000	9,200,000	0	人 件 費	2,116,000	2,116,000	0
				※月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
※年 会 費	1,200,000	1,200,000	0	※夏冬手当	300,000	300,000	0
※終身会費	2,500,000	2,500,000	0	※通 勤 費	280,000	280,000	0
※新卒入会金	600,000	600,000	0				
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0	交 通 費	100,000	200,000	△100,000
※新卒終身会費	3,500,000	3,500,000	0				
				需 要 費	630,000	730,000	△100,000
名簿委託収入	0	1,000,000	△1,000,000	※通 信 費	500,000	600,000	△100,000
名簿販売収入	0	0	0	※事務用消耗品費	80,000	80,000	0
名簿広告収入	0	1,000,000	△1,000,000	※備 品 費	50,000	50,000	0
				会 議 費	3,050,000	2,550,000	500,000
会報広告料	40,000	40,000	0	※会員総会費	1,700,000	1,000,000	700,000
				※役員総会費	300,000	300,000	0
総会会費収入	700,000	700,000	0	※理 事 会 費	350,000	350,000	0
				※委 員 会 費	500,000	600,000	△100,000
利 子 収 入	20,000	20,000	0	※懇 談 会 費	200,000	300,000	△100,000
				事 業 費	3,640,000	3,640,000	0
雑 収 入	0	0	0	※甲陽だより	1,200,000	1,200,000	0
				※郵 送 料	1,400,000	1,400,000	0
寄 付 金	0	0	0	※振替用紙代	120,000	120,000	0
				※封 筒 代	120,000	120,000	0
収入合計	9,960,000	11,960,000	△2,000,000	※記念品代	600,000	600,000	0
				※母校後援費	200,000	200,000	0
基本金解約	—	—	0				
				雑 費	350,000	350,000	0
繰 越 金	6,591,987	3,728,981	2,863,006	※校 内 志	50,000	50,000	0
				※慶市その他	100,000	100,000	0
				※振 替 料	100,000	100,000	0
合 計	16,551,987	15,688,981	863,006	※その他雑経費	100,000	100,000	0
				支 出 合 計	9,886,000	9,586,000	300,000
				特別創立金積立	50,000	0	—
				新卒者名簿購入費	0	1,400,000	—
				予 備 費	6,615,987	4,702,981	—
							—
				支 出 総 計	16,551,987	15,688,981	

(単位：円)

■あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成16年6月30日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…15年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃 未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 1000円が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。

次の二つの例をご参照下さい。

♪♪卒11	11110	00000
-------	-------	-------

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪♪♪♪♪	♪♪卒11	11111
-------	-------	-------

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H15年度まで納付しておられます。

⑬尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

会員だより



18回 山桜会

平成16年5月10日、「大和屋 林泉」(ホテルグランヴィア大阪19階)で第14回山桜会を開催した。

出席者は昨年と同様、森本、前田、青山(写真後列向って右より)、清水、富田、貴田(前列向って右より)が集り、約2時間歓談した。

富田君より、甲陽学院同窓会総会の概要の説明があり、それについての意見交換をしたり、又時局を憂えたりもしたが、これからは、病気とか、身体の不自由を嘆くよりも、前向きで、積極的な考えと行動で、余生をそれぞれ自分なりに、楽しく過ごすことで、次回も元気で再会することを結論として、散会した。(貴田 記)



21回 桜組

平成15年度21回卒桜組会は、前年度申し合せのとおり、11月は第3木曜日の20日夕方4時から、毎年おきまりの西宮市内は戸田町のグルーメS子でー。

事前の出欠返事では、定連の一人が体調回復が今一つということ以外、全員集合が期待出来ましたが、直前になってご親族にご不幸発生のおハプニングで、止むなく更に一名減の、然し暫くぶり8名出席の盛会(?)は大変よろこばしい事でした。

会の進行内容や、それに続く隣接のL亭でのカラオケの二次会と、プログラムは例年のとおりですが、一年間に積った話題は豊富で、話は尽きず、飲み食い且歌って時間の許す限り秋の夜のひとときを楽しんで、名残りを惜しみつつ、翌年の再会を約して散会しました。

来年もやはり11月の第3木曜日に開催することを内定、万難を排して集まろうと申合せをした次第です。

なお出席者は石田、越智、鍵本、木村、鈴木、別當、堀の諸兄に私長村でした。(長村 記)



22回 橘友会

昭和18年卒業の我々は、大方の会員が数え年80の傘寿を迎えたことを記念し、久しぶりに旧交を温めて語り合おうと、平成16年3月24日、JR大阪駅ホテルグランヴィア大阪19階「しずく」に集まりました。

酔いが回る前に、気分は既に先生方を困らせた中学生時代に帰り、懐かしい話題に盛り上がりましたが、さすがが寄る年波の故か、鬼籍に入った友の思い出話や、前立腺病の情報交換、も飛び交い、お互い元気なうちの再会を約して家路に就きました。

写真は後列左から、清水、羽間、斎藤、山本、前列左から、芦田、酒井、池田、本莊、赤塚です。

(酒井 記)



26・27回

26回生・27回生の諸氏に告ぐ「六十年目の集い」に参加しよう！

我々は昭和19年6月から一年余学徒動員生徒として「関西ペイント尼工」「神戸製鋼」「阪神電鉄」で汗を流しました。その時から今年が丁度60年目にあたります。60年と言えば還暦、ダイヤモンド婚が瞬時に思い浮かびます。60年の歳月は嫌な事・苦しかった事・嬉しかった事等々すべてを熟成・濾過・ブレンドしてくれ楽しい思い出だけが残っています。その思い出を肴に飲み・シャベクリを今年は甲陽学院同窓会総会にしたいと思っています。(ノボテル甲子園)8月28日(土)に開催される総会に多くの参加を待っています。

望月、武田克、梅垣、柿沼、毛利、難波、光野

36回

「よう 元気にしてた?」「いやあ～何年ぶりだろうねえ」再会を喜ぶ声があちらこちらで聞こえる。去る5月27日、恒例の同窓会がJR芦屋駅前の“ホテル竹園”でおこなわれた。年金暮らしの仲間が多くなり、会費を安くしようとの思惑もあって、今回は幹事西村善明君の顔がきくホテルを会場に選んだのだ。関東から駆けつけた5名を含め、総数27名の元気印の爺サマが芦屋に集まった。

7年ぶりに参加した福田達君のショートスピーチと乾杯で開宴したが、源氏物語の原書購読をやっているという話には、さすがは元生徒会長、ヤルことが違うと全員

が感心した。続いてサントリー出身の舟越辰緒君による「ワインよまやま話」の講演があり、そのウンチクぶりにこれまた一同が感嘆した次第。この講演会も10年ほどになるが、医者健康話、僧侶の宗教話とタメになることが多かったように思う。

やがて出席者の近況報告が始まったが、それぞれ元気で若いのに驚く。それにしてもリタイア人生が長くなるにつれて、人間像が中学時代のものに近づいていくのはなんとも不思議なものだ。仕事人生は虚像の部分結構多いが、仕事を離れると本来の自分、すなわち実像で生きていくことになり、それが変化の理由なのかもしれない。その意味で仲間のスピーチはお互い自分の生き様に参考になるといえる。

角野敏二君のリードで校歌斉唱、記念撮影そして次回幹事に田村真也・舟越辰緒両君を指名して会はお開きとなった。ホテル近くのカラオケラウンジでの二次会には16名が参加し、それぞれがマイク片手に熱唱。折りしも阪神が横浜に今季初勝利の情報が入り、全員による“六甲おろし”の大合唱で散会となった。翌日は中川博二君が理事をしている芦屋カンツリー倶楽部でのゴルフ

があり、矢田忠君が優勝杯を手にした。

今年の同窓会は幸いなことに訃報の報告もなく盛況のうちに終わったが、来年は卒業50周年の節目にあたり、ホームカミングデーの前後に会を開くことが決まっている。この一年、全員が元気に過ごし、笑顔での再会を心から願っている。(矢野篤太郎 記)



44回 藤吉会

昭和35年3月、中学校藤野学級を卒業した我々のクラス会「藤吉会」の面々も今年は還暦を迎える歳となりました。そこで還暦を祝って久しぶりに一泊のクラス会を

藤田福夫先生のこと

—『甲陽學報』に関連して—

濱 口 博 章 (21回)

藤田福夫先生は私どもが入学した昭和12年度の橘組の担任で、昭和16年3月大阪府立北野中学校に転じられるまでのクラス担任であった。担当は国語、昭和11年、京都帝国大学を卒業して直ちに本校に赴任された。北村善一先生の2年後輩である。私にとっては恩師であり、同時に大先輩でもいらっしゃる。

先生の著作や染筆の短冊・色紙類は、先年石川近代文学館に悉く寄贈したが、一部の抜刷だけは手元に残し、いずれ本校の校史資料室に託する心算であった。しかし内容から考えて、多くの先輩方のお目にとまった方がよいかもしれないと思い、「甲陽だより」の紙面をお借りする事にした。

藤田先生の抜刷は、『「文庫」「新声」の詩人藪紫影』（椋山女学園大学研究論集第10号第二部 昭和54年3月）で、それによれば、「明治三十年代末から、四十年代初頭にかけて「文庫」「新声」をはじめ「詩人」などで活躍した詩人藪紫影（別号、白明、時に薄明。また草村繁ともいう。）についてはこれまでわずかに河井醉茗の「醉茗詩話」で叙述され、また日夏耿之助の「明治大正詩史」…「青海波」の項に名をしるされているのみであった。」とある。

この藪紫影とは昭和17年2月、第三代校長となられた藪重臣先生（昭和33年逝去）であり、我々第21回卒業生は藪校長の最初の卒業生である。藤田先生の抜刷には「藪重臣年譜・作品年表・青春を記念すべき詩の秀作二篇を抄出」している。

入学して間もなく、『甲陽學報』第二第三号が配布された。昭和12年3月1日発行とあり、その発行兼編輯

人は藪先生である。この学報は昭和14年6月、第四年第五号まで発行され、最終号に「廃刊の辭」を掲載、筆者は「白明」とあり、藪先生の文章である。編輯人である藪先生の署名記事に併せて、一般の記事も多く、さらに雅号で書かれたものに、伊賀駒吉郎校長夫人逝去を悼む臨時号に「悼伊賀先生夫人」という詩が「白明」として掲載されている。加えて第二第五号（昭和12年4月5日発行）には「NO・ENGLISH 草村 繁」の一文がある。藤田先生の論文により、「草村繁」が藪先生のペンネームであること明らかで、草叢の繁っている有様と「藪」との関係が想像されて微笑ましい。

ペン・ネームに関連して付記すると、第二第三号に「博物學者のビーグル號搭乘航海記譯稿(二) チャールス・ダーウィン原著 木賀 多譯」という文章がある。第四号に(三)、第七号に(四)が掲載され、(四)の文末に(続く)とあるが、続稿は見当らない(譯稿(一)は私の入学以前の発行であるから、詳細は承知しない)。この譯稿の内容からして、ずっと理科の先生のお仕事かと思っていたが、藤田先生に随想集『野あざみ』を読んでいた、「木賀多」は藤田先生のペン・ネームであることが判明した。近代文学の短歌や詩を専攻され、『水甕』の歌人でもあられた先生が、このような翻訳を掲載されたのは、まさにペン・ネームの「木賀多(気が多し)」であったと言うべきであろう。

藤田先生は平成5年5月15日に逝去、来年は十三回忌になる。蕪雑な一文を草して偲ぶくさとしたのも因縁というべきであろう。妄言多罪。

やろうということになり、幹事の北口君を中心に、喜多君のアドバイスや西宮北GCのご紹介もいただいて4月17～18日新緑の有馬はりゾートクラブ「ViVi有馬」で行いました。

今回は東京から遠路、今村夫妻・芦川君・鳥居君も来られ総勢21名の多きになりました。喜多君の乾杯の音頭で会は始まりましたが、われわれが還暦をこうして皆で祝えられるのも恩師の藤野先生のお元気なお蔭との喜多君の挨拶がありました。

先生からは例年通り資料をもとに、最近読まれた本の読後感の発表をいただきました。今回は「吉田茂の書簡」と「廻り道極楽論」、特に後者からは人生の果実は61歳からなんと90歳まで採れ続ける…というまことに勇気づけられる内容でした。また我々の還暦を祝ってお気遣いをいただきましたことにいたく恐縮しております。我々からは先生に「鷗外をめぐる百枚の葉書(文京区立鷗外記念本郷図書館)」を差し上げ、今後ますますのご健勝を祈念しました。

飲むほどに酔うほどに歓談はすすみ、お開きのあとは小宴会場に移って、銘酒「吉平」をはじめ差し入れの酒を飲みながら鳥居君に用意していただいた最新のOHPを使って、往時の、先生も我々もまだ若かりしころの写真を見ながら予想以上に盛り上がりました。(この時の写真は山田君のアルバムから拝借し、三浦君がPCにスキャンしました)

新開君から、「先生のお名前の吉平は本当はなんと読むのが正しいか」とのクイズがあり、「きっぺい・きちへい・きへい・よへい…」など出ましたが、「きちへい」が正解でした。しかし我々のなかでは「きっぺい先生」で通しています。

翌日は先生と有志は金泉の湯に向かうなど三々五々解散となりましたが、次の大きな行事は先生の米寿のお祝いであり、先生はもちろん、我々も全員元気に集いたいものです。

なお次回の幹事は横内君と決まりました。

(林 正朗 記)



51回

51回学年同窓会関東在住者の集まりが銀座ねぼけでありました。参加者は13名で、永久幹事の弁護士丸島君の尽力で今年も開催に漕ぎ着けることができました。

卒業以来30有余年、自らの健康と、親の介護、そして子供の就職と結婚の話題で盛り上がりました。特に今年の初め自動車事故に遭遇し、90日間の病棟生活から奇跡的に生還した増田君の話にはみんなじっと聞き入っておりました。

厳しかった音楽の池尻先生の中学校時代のエピソードなども飛び出して和やかに時は過ぎて行き、35周年の企画を求める理事の田辺君のメッセージをこころに刻みながら、来年はもっと健康で集まろうと言いつつお開きとなりました。(佐野 記)



訃報

左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(平成16年7月9日現在)

新田谷一三氏 (造船2)	占部 禎助氏 (造船2)	松下 義男氏 (機械2)	田中 重文氏 (機械1)	小野仁三郎氏 (高商3)	尾野 俊和氏 (53回)	西本 頼正氏 (45回)	宮本 匡晴氏 (41回)	杉谷 一郎氏 (40回)	五十田芳信氏 (39回)	吉村 隆氏 (32回)	光永 健氏 (31回)	佐藤 實氏 (31回)	波々伯憲作氏 (25回)	佐伯 甲二氏 (25回)	大村 輝一氏 (24回)	大村 尚郎氏 (23回)	中島 正和氏 (23回)	善野準二郎氏 (23回)	住田 吉輝氏 (23回)	岩谷 博氏 (23回)	長岡日出雄氏 (22回)	植田 俊治氏 (22回)	藤井 勇氏 (14回)	山田 隆晴氏 (13回)	吉松 寛彦氏 (13回)	波田 兼治氏 (13回)	河北 耕三氏 (13回)	原田 透氏 (12回)	朝比奈貞雄氏 (11回)	高城喜久夫氏 (10回)	薄田 桂氏 (8回)	安部 輝雄氏 (7回)	藤田 忠人氏 (4回)
03年10月 逝去	04年1月13日 逝去	03年10月23日 逝去	04年1月30日 逝去	04年3月25日 逝去	04年2月20日 逝去	04年3月15日 逝去	04年4月 逝去	03年12月13日 逝去	03年12月5日 逝去	04年5月10日 逝去	03年1月4日 逝去	04年4月21日 逝去	04年4月16日 逝去	03年2月22日 逝去	03年10月24日 逝去	04年3月20日 逝去	03年10月10日 逝去	03年11月10日 逝去	01年10月8日 逝去	03年12月16日 逝去	02年4月16日 逝去	03年8月27日 逝去	03年12月27日 逝去	03年6月11日 逝去	03年11月6日 逝去	03年12月4日 逝去	04年2月2日 逝去	02年 逝去	04年2月8日 逝去	04年2月27日 逝去	03年11月9日 逝去		

サッカー部 対灘定期戦

2004年6月20日第52回甲陽－灘サッカー部定期戦が行なわれました。当日は、台風の接近によって天候が危ぶまれましたが終日好天に恵まれ、暑いながらも絶好のコンディションのなかで、甲陽、灘それぞれ多数の部員が参加して行なわれました。試合結果は、中学校の部は2－1で灘中学校の勝利、高等学校の部は1－0で甲陽学院の勝利となりました。また、OB戦については、若手メンバーの集まりが悪かったのが少々残念でしたが、無事に実施することができました。午後には中学、高校、それぞれのOB戦も行なわれ、参加者全員がサッカーを楽しむことができました。

写真は甲陽サッカー部OB会長殿村氏より優勝トロフィーを受ける吉井主将。



大嶽親方のプロフィール

大嶽親方、元関脇貴闘力関は、神戸市兵庫区出身で、今回司会を務めるABCアナウンサーの上田慶行氏（67回）とは小学校時代の同級生です。

現役時代には、幕内最高優勝1回、殊勲賞3回、敢闘賞10回（史上1位）、技能賞1回、金星獲得9個。通算728勝657敗（114場所）。特に、平成12年



断髪式での貴闘力関と上田氏
の3月場所において史上初の幕尻優勝を果たすなど、「記録以上に記憶に残る力士」として多くのファンを魅了しました。

写真の断髪式は平成15年2月2日に行われ、年寄大嶽を襲名されました。また、今年1月1日付で大鵬親方から部屋を引き継ぎ、大嶽部屋を経営して後進の指導育成にあたっております。

告 知 板

☆ お詫びと訂正 ☆

前号（69号）14頁の訃報欄に23回生高橋源二様のお名前が掲載されておりますが、高橋様はご健在であり、誤報でした。高橋様はもとより多くの方々にご不快の念を与え、またご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。

実はお亡くなりになったのは同じ23回生の住田吉輝様で、高橋様は、住田様の訃報を同窓会事務局に電話連絡をしていたいたのですが、その際に事務処理を誤り、高橋様と住田様のお名前が入れ替わってしまったというのが、誤報の原因です。このようなミスはあってはならないことと一層気を引き締めまして、事務処理に慎重を期してまいる所存です。申し訳ございませんでした。

☆「会報 甲陽だより」の原稿募集 ☆

次号（第71号）は、来年3月下旬頃に発行を予定しています。「会員だより（同期会・クラス会）」や「クラブのOB会だより」などのご投稿をお待ちしています。

原稿の締切日は来年1月末です。

☆ ご注意！ 住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆理事・評議員の皆様へ☆

理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から離れられる方が目立ってきました。さらに、理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。

会則上、理事・評議員は同期の方々から適宜の方法で選出されることになっています。理事・評議員が空白の卒業回、定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を同窓会事務局までお届けをお願いします。

定員は、理事は各卒業回から1名、評議員は各卒業回から5名以内です。

夏の会員総会

どうなる国技!?

ガチンコ勝負! 甲陽健児に大嶽親方 (元関脇貴闘力)

— 大相撲新時代へ向けて「新米親方」の教育論 —

8月28日(土) 14時~17時 於: ノボテル甲子園

今年度の会員総会は次のような要領にて開催いたします。同窓の友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ご家族同伴も歓迎です。

〈第1部〉大嶽親方を迎えて

今回は特別ゲストに大嶽親方をお迎えします。青少年の教育問題が議論を呼ぶ昨今ですが、今年から相撲部屋を経営して多くの若者の教育にあたっておられる親方から「角界の教育力」を語っていただくことで、教育のあり方についてのヒントが得られるかと思います。また、国技である大相撲が今日「グローバル化」の波に洗われるなか、21世紀の大相撲新時代への展望などもお聞きしたいと考えています。

当日は、甲陽健児の代表として関西文学編集長の河内厚郎氏(52回)が、上記の点をはじめ女性知事の土俵入りの是非や「お酒と相撲」などについて親方に迫ります。対論の進行は、親方の小学校時代の同級生でもあるABC上田慶行アナウンサー(67回)が取り仕切ります。乞うご期待!(親方のプロフィールを15頁に掲載)

〈第2部〉懇親会

第2部は会場を変えて、ノボテル甲子園の美味しいお料理と、ご寄贈賜りました日本酒「白鹿」やサントリーのビールとウイスキーで、楽しい懇親の場をもちたいと計画しています。

ホームカミングデー

卒業後25年、50年の方々を対象として「ホームカミングデー」を企画しています。今年は35回生と60回生が該当します。ご参加いただいた対象学年の皆様にはささやかながら記念品を用意しております。ふるってご参加下さい。

55回生は当番学年です

会員総会の企画・実行にあたって新鮮なアイデアを出していただくため、毎年まわりもちの「当番学年」の方々が運営委員会に参加していただいています。今年は55回生で、岩田研二郎・大川貴史・鈴木博正・森口匡の各氏が会員総会運営委員として今回の総会を運営にあたっています。55回の同期生の皆様、多数ご参加下さい。

大嶽親方への質問受付!

親方に質問したいことがありましたら、事前に同窓会事務局まで葉書・ファックス・Eメールでお知らせください。(当日会場でも質問を受付ます。)

information

日 時 平成16年8月28日(土)

第1部 14時~15時30分

第2部 15時30分~17時

会 場 ノボテル甲子園(旧甲子園都ホテル)

TEL 0798-48-1111

会 費 一般会員 4000円(当日会費)

学生会員 2000円(当日会費)

同伴家族 2000円(当日会費)

新卒者(平成16年3月卒) 無料

※母校への問合せはご遠慮下さい。

申込方法

同封の振替用紙で、8月19日(木)までに会費をお振込み下さい。あるいは8月23日(月)までに事務局まで参加のご予約を下さい(葉書、電話、FAX、Eメール)。この場合は特別割引として、一般会員は3500円、学生会員・同伴家族は1,500円とさせていただきます。

問合せ先

甲陽学院同窓会事務局 〒662-0096 西宮市角石町3-138

TEL 0798-71-4888 (月・水・木・金) 10時~16時

(8月12日~19日は母校夏期閉鎖期間につき不在)

FAX 0798-71-4890

Eメール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。

☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいで結構です。

☆昨年4月の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいようお願い申し上げます。



Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com

西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111



ノボテル甲子園



▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services